お手入れ・保管について

● **フレームのお手入れ**
- フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- 水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- 錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

● **シートのお手入れ**
- シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
- 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● **アームサポート、グリップ等の樹脂部品のお手入れ**
樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠注意	シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

● **保管・収納について**
- 収納スペースが少ないときは、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- 錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

仕様

（単位：mm）

フレーム	アルミ
アウターシート	ポリエチレン　塩化ビニル
シート幅	420㎜
シート奥行	310㎜（400㎜相当）　※調整範囲290/330
バックサポート高	740㎜（800㎜相当）　※調整範囲760/780/800
座高	540㎜（背上げ時）　680㎜（背下げ時）
全長	1130㎜（背上げ時）　1690㎜（背下げ時）
全幅	640㎜
全高	1130㎜（背上げ時）　880㎜（背下げ時）
重量	21.5㎏
キャスタ径	6インチ
主輪径	16インチ
折りたたみ寸法	前全長：940㎜ 全幅：640㎜ 全高：730㎜

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元

株式会社　ミ　キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号
TEL 052-694-0333　FAX 052-694-0800

1106-001

NEXTROLLER_SP【型式:NR_SP】

製品分類:座位変換型介助用手動車いす 122220 (JIST0102)

ネクストローラー_シルバーパッケージ
取扱説明書

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書と別紙「補足版取扱説明書」を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。
本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体の状態・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

目　次

安全上のご注意・・・・・・・・・・2
はじめにご確認ください・・・・4
各部のなまえ・・・・・・・・・・・5
本製品について・・・・・・・・・・6
使いかた・・・・・・・・・・・・・・7
　ブレーキのかけかた・・・・・・・・・・・・7
　バックサポート（背もたれ）の角度を変える（リクライニング機能）・・・・・8
各部の調節のしかた・・・・・・9
　駐車用ブレーキの取付位置調節・・・・・・・9
　フットサポートの高さ調節・・・・・・・・・・・9
　フット・レッグサポートの前後位置調節・・・10
　フット・レッグサポートの上げ下げ・・・10
　フット・レッグサポートの開閉・取り外し・・11
　ヘッドサポートの高さ調節・・・・・・・・12
　手押しハンドルの高さ/向き調節・・・・・12
　アームサポートパッドの高さ調節・・・・13
使用上のご注意・・・・・・・・・14
　走行上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・14
　段の上がりかた・・・・・・・・・・・・・・・・14
　段の下りかた・・・・・・・・・・・・・・・・・14
保守・点検・・・・・・・・・・・・15
　使用前の点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　お手入れ・保管について・・・・・・・・・・16
仕様・・・・・・・・・・・・・・・・16

本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

FORCE
MASTER OF WHEELCHAIR　POWERED BY MiKi

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

⚠危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

⚠	警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
⊘	禁止の行為であることを告げるものです。
❗	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

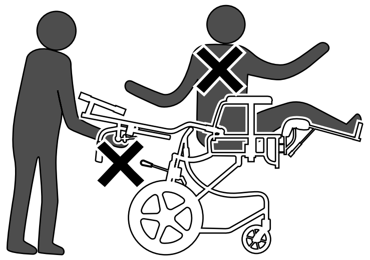
⚠危険

スピードを出さないでください。
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。

リクライニングを倒した状態では、車いすの上で上体を起こしたり、立ち上がらないでください。
車いすの重心バランスが崩れて、転倒・転落の恐れがあります。

また、そのような状態では、絶対にリクライニングレバーの操作を行わないでください。
座面が急激に下がり、事故やけがにつながる恐れがあります。



⚠警告

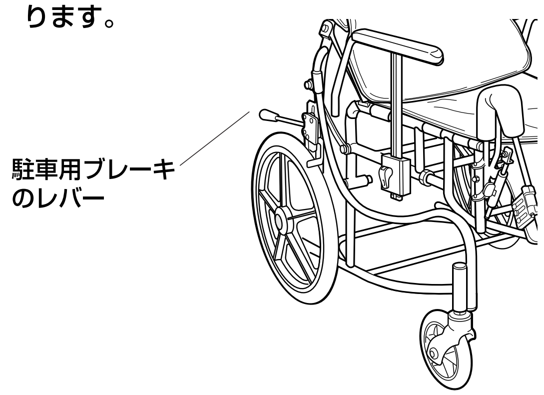
乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠警告

乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車ブレーキは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



手押しハンドル、本体フレームに重いものを吊り下げたり、入れないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

制動用ブレーキ（オプション）は、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートやフット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

使用者を乗せたまま車いすを持ち上げるときは、必ず駐車用ブレーキをかけて主輪とフレームを持ってください。
主輪とフレーム以外の部品を持つと、使用者の重みで部品が外れて使用者が転倒または落下し、事故やけがにつながる恐れがあります。

駐車用ブレーキ、制動用ブレーキ（オプション）は定期的に安全点検を行ってください。（期間の目安：１ヵ月に1度）

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。

タイヤの摩耗に注意してください。
タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

車いすのフレーム構造を変更するような改造はしないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。また、故障の原因となります。

⚠注意

この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。

フレームに最大体重が記載されている場合は、体重制限（積載物も含む）を守って使用してください。

リクライニングおよびエレベーティング操作時には、フレームの可動部に指や身体をはさまないよう注意してください。

走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。

⚠注意

走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。

操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。
けがをする恐れがあります。

使用する前に主輪、キャスタ、駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。

高さ調整式手押しハンドルは、クイックリリースのナットで固さを調整し、しっかり固定された状態を確認し使用してください。

フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。

バックサポートを後ろに倒した状態で背面アウターシートには腰かけないでください。
転倒によるけがや、車いすの破損の原因になります。

暖房器具にタイヤを近づけないでください。
タイヤの表面が溶けたり、破損したりすることがあります。
破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。

介助者が車いすを押すときは、必ず高さ調整ハンドルのクイックリリースレバーがロックされていることを確認してから行ってください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。

車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。

シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。

はじめにご確認ください

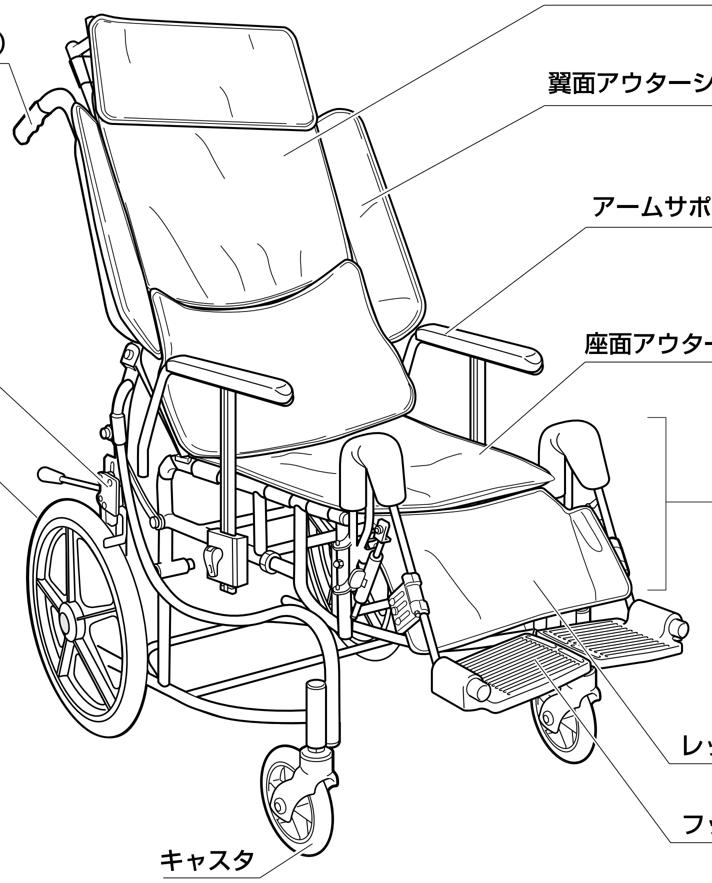
本製品購入後、はじめて梱包箱を開けるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

・車いす本体
・フット・レッグサポート（右、左）：各1
・専用クッション（①、③、④、⑤、⑥）：各1
・専用パット②（右、左）：各1
・工具（スパナ：2本、5mmLレンチ：1ヶ、4mmLレンチ：1ヶ、3mmLレンチ：1ヶ）
・取扱説明書（本書）、補足取扱説明書：各1
・保証書

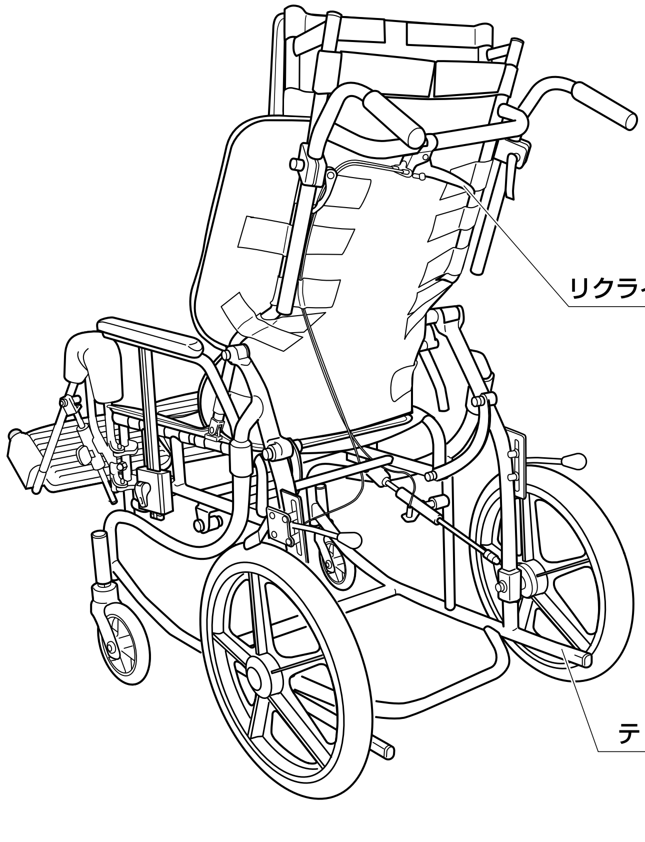
各部のなまえ

下図は標準仕様車です。車いすによっては、装備や形状が異なります。

前側



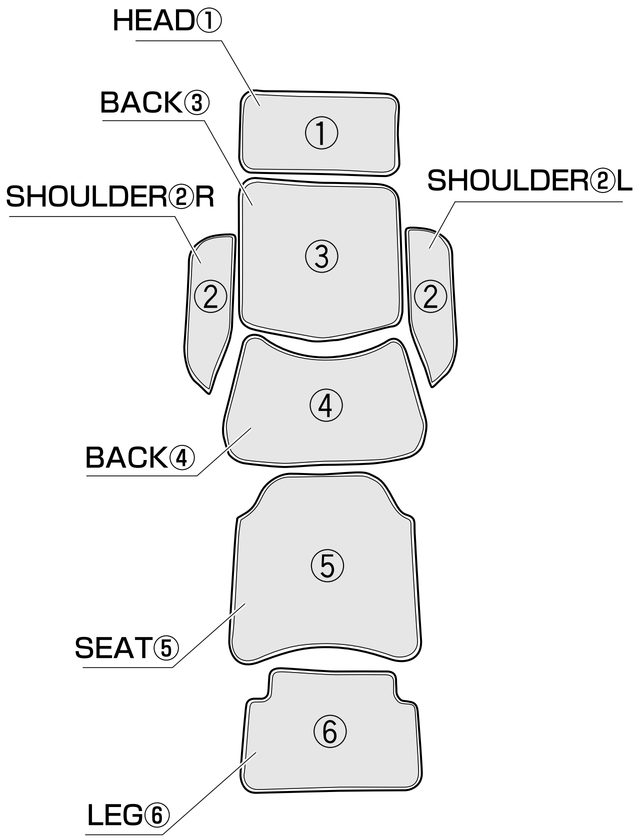
後側



専用クッションとパッドの取付け位置

下図に従って、専用クッションとパッドを車いす本体の正しい位置に取り付けてください。

⚠注意	パッドとクッション裏側のマジック面に糸くず、汚れ等がつくと、接着が弱くなりますので取り除いてください。



本製品について

本製品は、標準機能の他に、必要に応じてお選びいただけるオプション機能を用意しております。オプション機能は本製品をご注文時にお選びいただきますので、お車ごとに装備内容が異なります。
本取扱説明書では、オプション機能についての記載内容に オプション マークを付けています。ご自分の車いすに装備されたオプション機能をご確認の上、必要な箇所をお読みください。

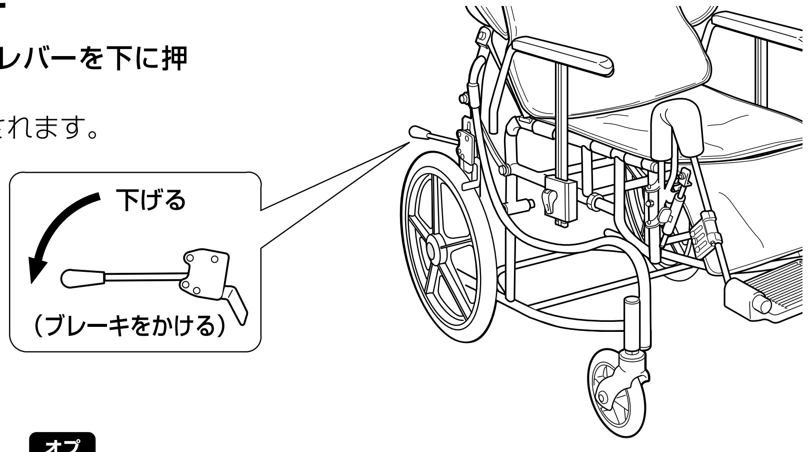
使いかた

ブレーキのかけかた

⚠警告	・乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 ・乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。 ・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 ・タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。 ・走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者が、左右の駐車用ブレーキレバーを下に押し下げてかけます。
ブレーキレバーを上に引くと解除されます。



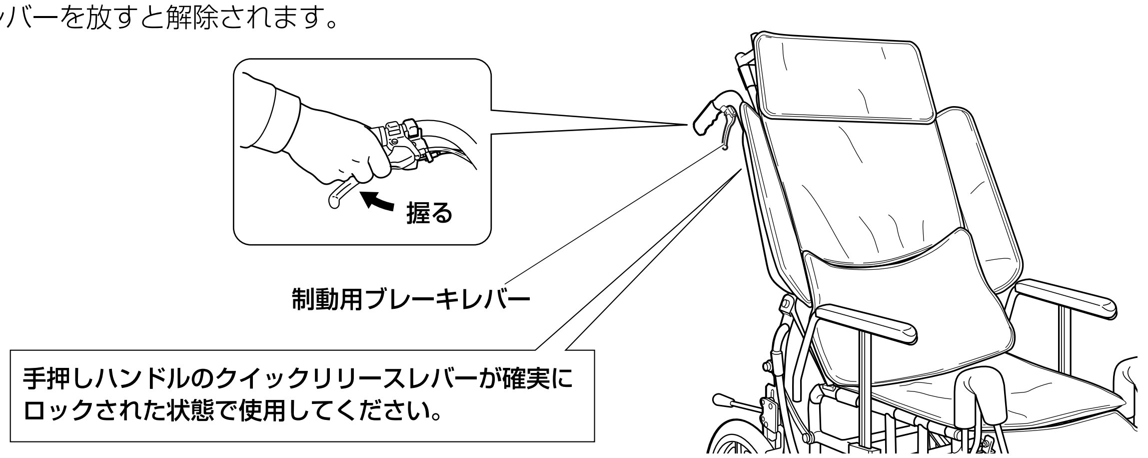
● 制動用ブレーキのかけかた オプション

⚠危険	・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 ・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。

⚠警告	制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。片側にだけ制動をかけますと、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠注意	ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。（期間の目安：１年に1度）

介助者が、左右の手押しハンドル下の制動用ブレーキレバーを握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。

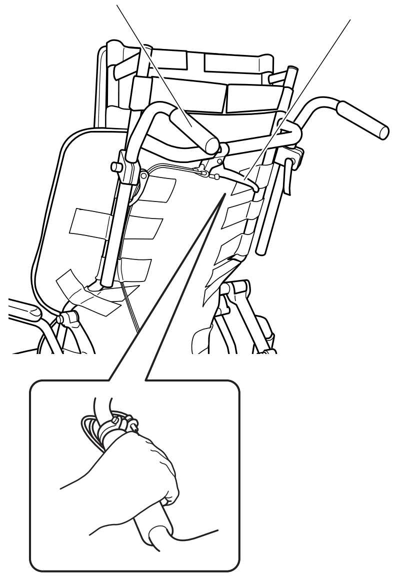


バックサポート（背もたれ）の角度を変える（リクライニング機能）

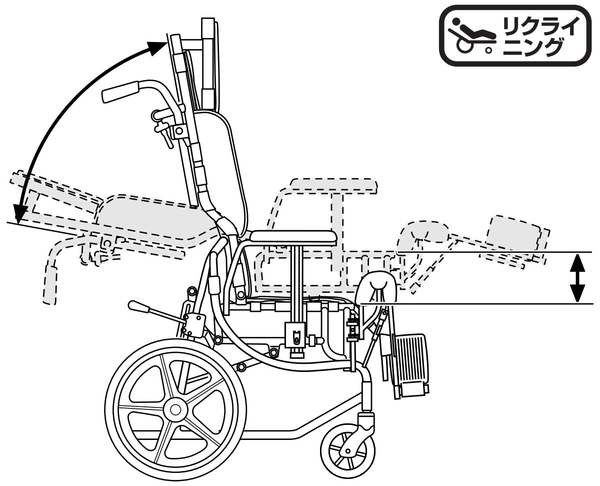
⚠危険	・バックサポート（背もたれ）を倒した状態のときは、使用者の上体を起こさないでください。車いすの重心バランスが崩れ、転倒、転落する恐れがあります。 ・使用者が上体を起こした状態で、リクライニング操作をしないでください。座面が急激に下がり、事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠注意	・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行なってください。 ・フレームの可動部には指や身体をはさまないよう注意してください。 ・両側のアームサポートを上げた状態で操作を行ってください。

1 **片手で手押しハンドルを握り、もう片手でリクライニングレバーを握ります。**
（リクライニングマークが付いた緑色のレバーです。）



2 **リクライニングレバーを握ったまま、バックサポートの角度を調整します。**
＊バックサポートの角度は、フラット～90度の範囲で調整可能です。
＊バックサポートの角度に応じて、座面の高さも変わります。



3 **お好みの角度が決まったら、その位置でバックサポートを止めたまま、レバーを放します。**
バックサポートが固定されます。

＊レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。

各部の調節のしかた

⚠警告	各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行なってください。

駐車用ブレーキの取付位置調節

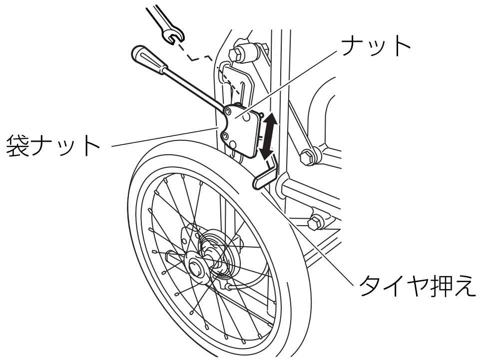
ブレーキの効き具合を随時点検し、効きが悪い場合は、ブレーキの取付位置を調節してください。

使用する工具：10mmスパナ（締め付けトルク：5.0～6.0N・m）

＊作業しない側の駐車用ブレーキのみかけて調節を行なってください。

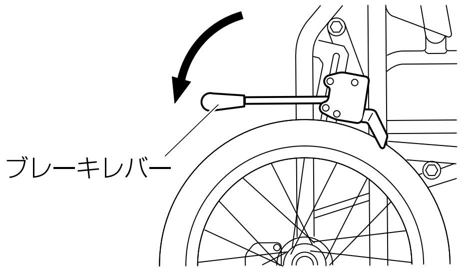
1 **駐車用ブレーキの袋ナットをゆるめ、次に内側のナットをスパナなどでゆるめます。**

2 **駐車用ブレーキをかけたときに、タイヤに駐車用ブレーキのタイヤ押えが当たり、主輪がしっかり止まる位置に調節します。**



3 **内側のナットを締め、袋ナットで固定します。**
＊駐車用ブレーキがガタつかずしっかり固定されていることを確認してください。

4 **ブレーキレバーを下げて駐車用ブレーキをかけ、主輪がしっかり止まることを確認します。**



＊主輪がしっかり止まらない場合、または駐車用ブレーキが効きすぎる場合は、再度調節してください。
＊反対側も同様に調節してください。

フットサポートの高さ調節

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

使用する工具：13mmスパナ（締め付けトルク：8.0～12.0N・m）

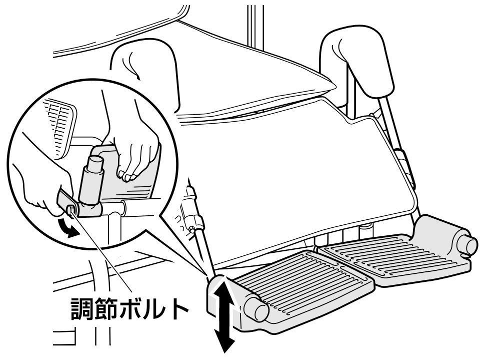
⚠注意	フットサポートは、地上より50mm以上あげた状態で使用してください。

1 **駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。**

2 **フットサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。**

3 **使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。**

4 **調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。**



＊反対側も同様に調節してください。
＊フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。

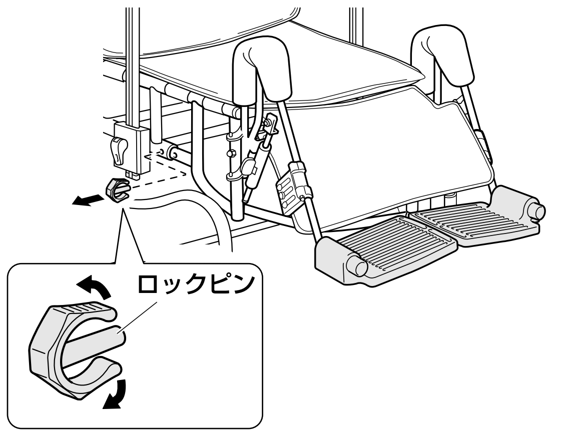
フット・レッグサポートの前後位置調節

使用者に合わせて、フット・レッグサポートの前後位置および座面の奥行きを調節することができます。ロックピンを取り付ける穴を変えることにより、3段階に調節することができます。

1 **駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。**

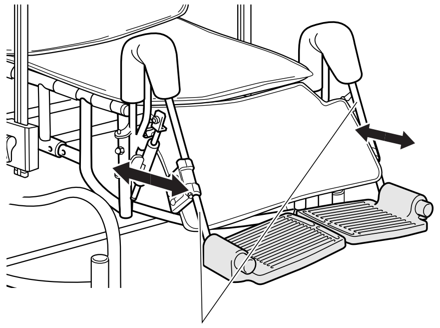
2 **フット・レッグサポート、クッション⑤、⑥、および座面のインナーシートを取り外します。**

3 **ロックピンを抜き取ります。**
＊ロックピン上下の樹脂部分を外側に広げながら抜き取ってください。



＊ご購入時は、前から2つめの穴にロックピンが取り付けられています。（初期設定）

4 **フット・レッグサポートフレームを前後に動かして調節し、適切な位置になるところでロックピンを取り付ける穴を決めます、**



5 **ロックピンを穴に通し、完全にロックされるまで差し込みます。**

6 **座面のインナーシート、クッション⑤、⑥、およびフット・レッグサポートを取り付けます。**

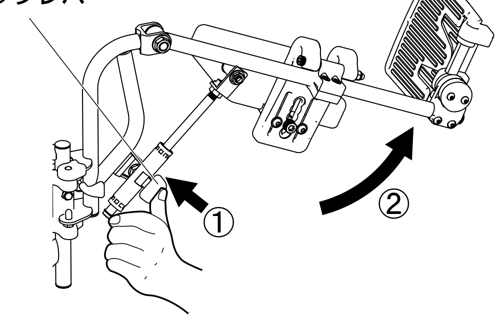
フット・レッグサポートの上げ下げ

フット・レッグサポートの角度をお好みに合わせて変えることができます。脚を持ち上げたいときや、ひざ関節の曲がる範囲が限られている場合などに便利です。

角度の変えかた

ロックレバーを上に押し込んでロックを解除した状態で、フット・レッグサポートを引き上げて角度を調節します。
ロックレバーを離すと、フット・レッグサポートはロックされます。

＊フット・レッグサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。
＊反対側も同様に作業を行ってください。



＊マルチフットサポートはオプションです。

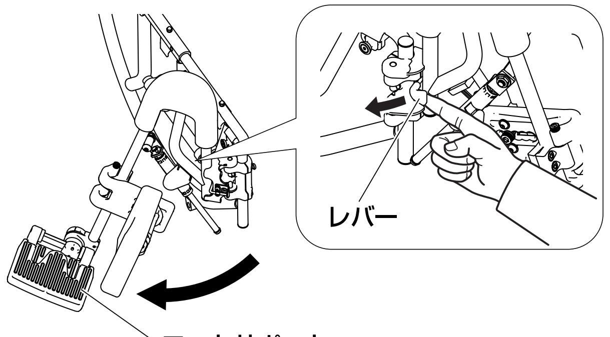
フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠警告	・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行なってください。 ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者が転倒、落下すると、事故やけがにつながるおそれがあります。 ・フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。事故やけがにつながる恐れがあります。 ・フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。事故やけがにつながる恐れがあります。 ・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。けがをする恐れがあります。 ・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など、事故やけがにつながる恐れがあります。

● 開きかた

レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。



＊マルチフットサポートはオプションです。

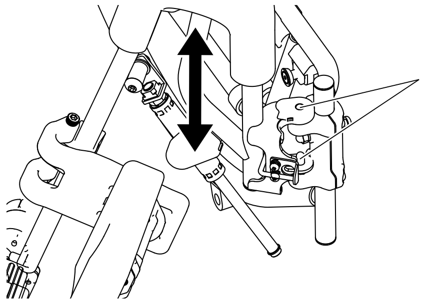
● 閉じかた

⚠注意	フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。



● 取り付けかた

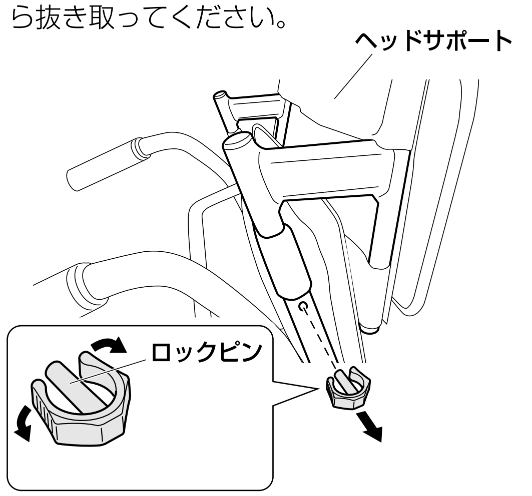
車体フレーム側の2つのピンにフット・レッグサポート側の回転軸穴（2箇所）を合わせてはめ込みます。
＊フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。
＊フット・レッグサポートを取り付け終えたら、レッグサポートシートを元の位置に戻してください。

ヘッドサポートの高さ調節

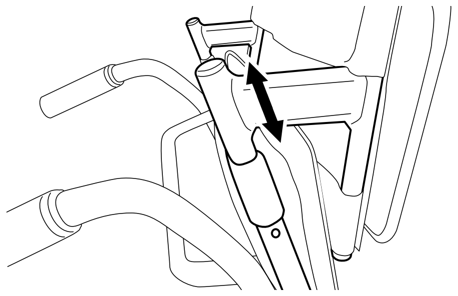
使用者に合わせて、ヘッドサポートの高さを調節することができます。ロックピンを取り付ける穴を変えることにより、4段階に調節することができます。
＊あらかじめ、ヘッドサポートシートの張り具合をゆるめておくと、作業がし易くなります。

1 **駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。**

2 **ロックピンを抜き取ります。**
＊ロックピン左右の樹脂部分を外側に広げながら抜き取ってください。



3 **ヘッドサポートを上下に動かして調節し、適切な位置になるところでロックピンを取り付ける穴を決めます。**
＊ご購入時は、ヘッドサポートの高さが一番低くなる位置に取り付けられています。（初期設定）



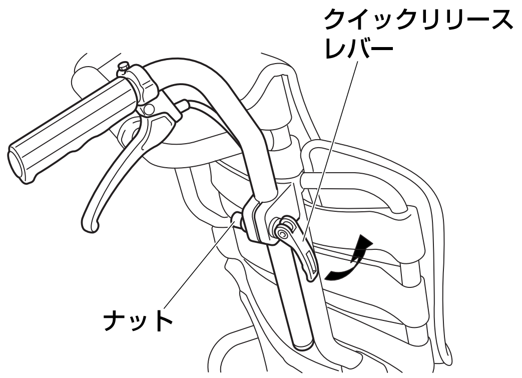
4 **ロックピンを穴に通し、完全にロックされるまで差し込みます。**

手押しハンドルの高さ/向き調節

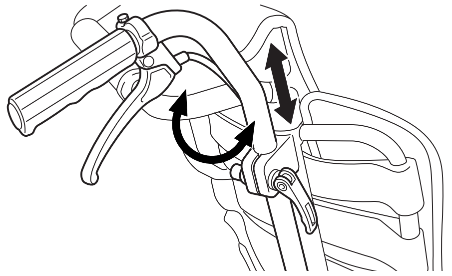
介助者に合わせて、手押しハンドルの高さと向きを調整することができます。

1 **駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。**

2 **クイックリリースレバーを引き起こしてロックを解除します。**



3 **手押しハンドルの高さと向きを調節します。**



4 **調節を終えたら、クイックリリースレバーを倒してロックさせます。**

5 **反対側の手押しハンドルも、同様に調節します。**

＊調節した後は、必ず手押しハンドルがぐらつかないことを確認してください。
＊クイックリリースレバーの締め付け具合がゆるすぎる、またはきつすぎる場合は、レバーを引き起こした状態で、レバーの反対側にあるナットを時計回り、または反時計回りに回して調節してください。
＊介助者が車いすを押すときは、必ずクイックリリースレバーがロックされていることを確認してから行ってください。事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートパッドの高さ調節

乗り降りの際にアームサポートがじゃまにならないように、アームサポートパッドを下げることができます。

⚠注意	**・高さ調節は、使用者の身体および衣服がアームサポートよりも内側にあることを確認してから行ってください。** **・フレームの可動部には身体および衣服をはさまないように注意してください。** **・高さ調節をした後は、必ずアームサポートがロックされていることを確認してください。** **・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。**

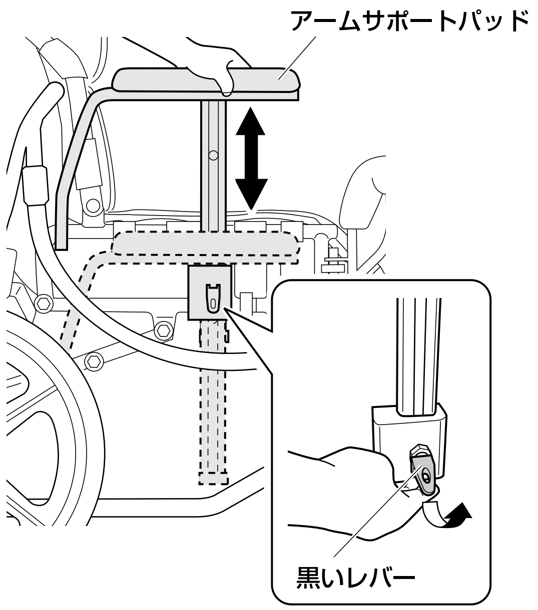
1 **駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。**

2 **アームサポートパッドを支えながら、アームサポート外側の黒いレバーを引き上げてロックを解除します。**

3 **アームサポートパッドを上下させて高さを調節します。**

4 **調節を終えたら、レバーを下に倒してロックさせ、アームサポートパッドを固定します。**

＊調節後、アームサポートパッドがしっかり固定されていることを確認してください。



⚠注意	**レバーを解除しているときは、アームサポートフレームが下がる恐れがあります。その際、アームサポートフレームとアームサポートパッドの間に指をはさまないよう注意してください。**

使用上のご注意

走行上のご注意

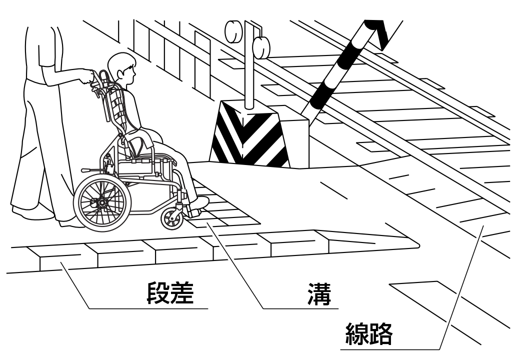
・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。

・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。

・溝や踏切の線路による落輪、キャスタの挟み込みには充分注意してください。

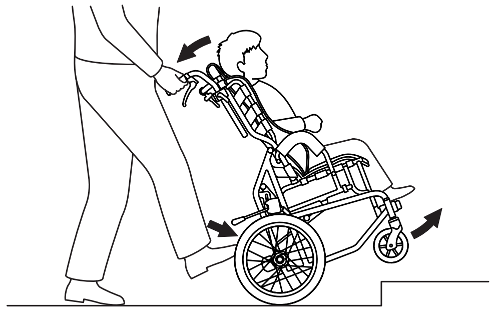
・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。

・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。



段の上がりかた

1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャスタを段の上にあげます。



2 主輪を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。

＊無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

⚠警告	持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、フットサポート、手押しハンドルなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行ない、車いすの水平を保つように、フレーム下部を両側からしっかり持って持ち上げます。

段の下りかた

手押しハンドルで車いすを支えながら、後ろ向きにゆっくり段を下ります。
＊無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。
＊段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

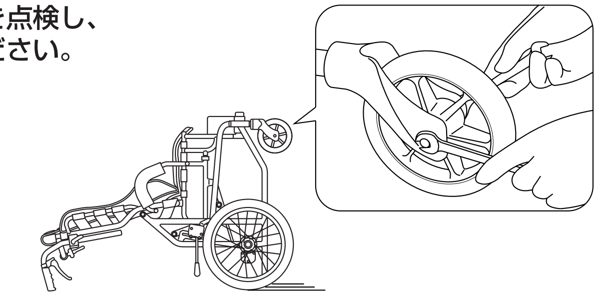
保守・点検

使用前の点検

使用前に必ず以下の点検を行なってください。

点検の結果、作動不良や違和感を感じたときは、すぐに使用を止め、お買上げの販売店または、最寄りの弊社支店、営業所へご連絡ください。

⚠警告	キャスタ、主輪、ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



・パンクのときは、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。（エアータイヤの場合）

・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。
（地上より50mm以上あげてください。）

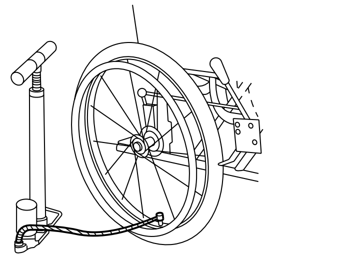
・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

● 主輪タイヤの空気圧の確認（エアータイヤの場合）

⚠注意	主輪タイヤの空気圧が少ないと、ブレーキがかからない場合や、かかりが悪くなる場合がありますので、空気圧には十分注意してください。

適正空気圧　16インチ：3.0Kgf/cm²

空気圧が不足している場合は、タイヤの空気圧を調整してください。
タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。
長時間使用しなくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。
（タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。）



● 駐車用ブレーキの作動確認

ブレーキレバーを操作し、ブレーキがかかることを確認してください。
*ブレーキの効きが悪いときは、タイヤの空気圧を調節してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
（エアータイヤの場合）

● 各調整部分が固定されていることの確認

各調整部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

● 消耗品、交換部品の確認

⚠注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品　名	交　換　時　期
主輪タイヤ	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスタ車輪	表面の摩耗が著しいとき。しっかりロックしても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、サビが発生したとき

また、車いすのフレームの耐用年数は5年を基本として製作されています。5年経過後使用される場合は、必ずお買上げの販売店または弊社へご相談ください。